

イーハトーヴの雪

作・井伏銀太郎

二〇一一年三月末 岩手県の港町の小学校の体育館 遺体安置所になっている

一面ブルーシート 棺桶がブロックの上に置かれている 靴が棺桶の前にある

金魚鉢に灰が入っていて線香が立てられている

P 1

(大きな靴とコート、帽子、マスクした男入ってくる)

(靴を置いて 合掌して、棺桶の蓋を開けながら)

美雪が・・・(中を確認して)：違うな・・・(大きなため息 マスクを下げ)

(お辞儀して) お疲れさん・・・お帰えんなさい・・・寒がったな、寒がった、寒がった

いがあったな、見つけてもらって (机から金魚鉢を持ってきて棺桶のそばに置く)

(男は棺桶の中の御遺体に話しているように見えるが、自分自身に語りかけている)

ちよつとばっかし、お邪魔すつからね・・・(椅子を取りに行く)

びっくりした・・・急に話しかけられて・・・(椅子に座る)

(辺りを見て) 今日はさ・・・新しい仏さん、他にいねみでだから

少しゆっくり話していいかな？(マスクを取って、しまいながら)

受け取ってね、年齢好いでるって言われたんで・・・今度こそ、美雪かって思ったんだけどな

妹なんですよ・・・あの日、いねぐなってしまっただけ

(線香道具出しながら) 不思議なもんだな・・・誰かを探してる時さ

普通は見つかって、ほっとすんだけど

(手が止まる) 何だか、見つかんねえと、ほっとすんだな

(線香の灰の片付けはじめる)

先週からね、全国から棺桶送ってもらえるようになって、本当、いがったな

初めはさ・・・この体育館の床にね・・・ただ、仏さん、並べらってで番号だけ付けらって

物みてえに・・・

役所の人たちも、何にもできなかったから

私ね、最初、ここに、妹探しに来たんだけど、

少しづつお手伝いするようになってね、葬儀屋だからさ

申し遅れましたが、葬儀屋の鈴木です・・・花巻から来てでね

葬儀屋だから。毎日のように、仏さんと向きあってるけど

・・・こんな場所ねえな・・・生きてる人より、仏さんの方が多いなんで・・・

泥だらけの仏さんも多くてね、せつかく身元が分かって家族が来てもね

泥だらけの姿見て、ただ、突っ立ってんですよ

だからプールから水汲んで来て、顔綺麗に拭いてやったら

やっと・・・家族だって分かって・・・初めて、涙、流してたな（灰 片付け終わり）

P 2 (線香を付けながら)

一休さんの言葉でね

「いま死んだ どこへも行かぬ ここにおる たずねはするな ものはいわぬぞ」
って言うのがあんだって・・・

「人は、亡くなつと、遠くへ行ってしまうって思うけど、そうではないんだって
すぐ近くにいるんだって。」

だからね・・・なんか、まだ・・・近くにいるような気がしてさ

ちよつとだけね、話しかけてみだんですよ・・・普通に、普通にね・・・話しかけて・・・
生きでる時と変わんねえようにさ・・・

それが・・・物でなく、人として向き合うことじゃねえがなって思ってたね・・・

でもな、こうやって、他人様だと、いろいろ話せるんだけど

いざ、本当の妹に会えたら・・・何、しゃべったらいいのかな・・・(合掌 線香、元の場所に)

(棺の脇の故人の資料、持ち物の入ったビニール袋を持って見て)

車の中で見つかったんだ、だからキレイなんだな・・

佐藤敏子さん・・免許証あって良かったね・・この写真・・息子さんがな

・・賢一と同じぐれだな・・甥っ子なんだけどね

何でもね・・人間は2回、亡くなるって話・・聞いた事あるがな

まず、肉体の死があって、次に・・忘却っていう、死があるんだってね

皆から忘れらって、初めで、本当の死がやって来んだな・・って事はだよ

(ビニール戻す) 忘れない限りさ、思い出ん中で、ずっと生き続けるっていう事じゃ

ねえがな・・だからね、・・ご家族が見つかんなくてもね・私だけでも、憶えていようって

ちよつと・・似顔絵描いてもいいがな(手帳出す)

(似顔絵描きながら) 佐藤敏子さん、あの日、あなたは何をしてたんですか？

やっぱり、家族の所、向かってたんですか？

あの日はね、皆して、一番大事な人の所、向かってたがらな

美雪もね、賢一、探しに行ってたんですよ

少し・妹の話していいがな・妹はね、私が中学生の時の・冬休みに生まれてね・

千支が、一回り違うんですよ・妹が産まれた日はね、キレイな雪が降ってたもんだから

親父がね、美しい雪、美雪って名前付けたんですよ、単純でしょ、

あれ、雪だったから良かったけど、もし、アラレが降ってたら

アラレちゃんになってだよって、妹笑ってたな

P 4

歌が好きでね、中学校、高校とずっと合唱部に入っで、コンクールで何回も優勝してね
ここだけの話、少しぼっちゃりしてたから声響くんだな、ここだけの話ね

・私ね、妹が初めて、歌った歌・覚えてんですよ

♪「あかいめだまの さそり ひろげた鷲の翼」

「星めぐりの歌」って・これ、宮沢賢治さんが作ったんですよ

両親が共稼ぎだったからさ、ちっちゃい頃は、よく、俺が面倒みでだんですよ

「銀河鉄道の夜」の絵本が大好きでね・・何十回も読んでやったな・・

銀河鉄道は亡くなった人、運ぶ列車だって言うのにな

そんなで・・ジヨバンニがね・「星めぐり」を口笛で吹くって所があつてさ

それで教えてやったんです。それが妹が初めて歌った歌だったな

親でもないのに良く憶えでるでしょ

親つつうのは、子供が、初めて歌った歌、覚えでるもんだよね

亡くなったお袋から聞いたんだけどさ、俺のは・・「おさるのカゴヤ」なんだって

敏子さんは・・息子さんが、初めて歌った歌、憶えますか

昔ね、いぎなり、お兄ちゃん、人間が発明した物の中で

一番の物は、なーんだって聞がれでね、何だと思えます

歌だって言うんだな、えっ？歌ってあの歌う歌が

歌って、誰かが発明したんだよ、だって・・・動物は歌わないでしょ

私はね・・・世紀の大発明は・・・リニアモーターカーでねえのか

列車が空中を走るんだからって言ったら

お兄ちゃん夢ないね、考えてみで歌の無い世界って淋しすぎるでしょ！だって。

♪「エッサ エッサ エッサホイ サッサお猿のかごやだ ホイサッサ」(似顔絵終わり)

P 5

何か・・・ノド乾いたな、やっぱり、歌ったからがな、お茶にしますか

インスタントコーヒーだけどね

(鞆から紙コップ、ポット出し、二人分 注いで)

盛岡の火葬場も、やっと動き出したからさ、ご家族見つけた仏さんから

連れでつてもらえるようになったがら。敏子さんも、早く見つかつといいな

(回りの棺桶を見て ため息) まだ、残ってた・・・あの3つ並んでる棺桶には、

家族が納められでんだ。車の中で見つかったき・・・、三人、抱き合ってたんだと
あつちのには・・・赤ん坊、赤ん坊は・・・なんで泣きながら生まれてくんのがな・

1回も笑わねえで、亡くなったんでねえが・・・

P 6 (コーヒー飲みながら 片腕組み)

あの日は・・・丁度休みだったんでね、私・・・マシユマロ作ってたんですよ

ホワイトデーのね・・・ほら・・・妹だけですから、バレンタインにチョコくれんのは

だから、毎年、二人にね、マシユマロ作って・・・やっぱり手作りは違うがらね

料理だけですから・・・私の趣味は。

マシユマロ簡単なんですよ、メレンゲ、ゼラチン、シロップを混ぜるだけ、ね、簡単でしょ

仕上げのシュガーパウダーはね(飲んで)賢一の目の前でね、振りかけてやるんですよ

よろこんでたな・・・おんちゃん、ほんとの雪みたいだなんて。

ああ、この雪はな、甘くて、暖けんだ、何たって、イーハトーブの雪だからな・・・こんな雪の中、銀河鉄道は走んだぞ・

でね、さっそく持っていこうと思ったら・・・地震が来ちゃってね・・・

地震もさ、何も、ホワイトデーの直前に来なくても、いっちゃね

すぐ、妹のところに向かったんだけど、5時間もかかってさ

着いたらもう、すっかり、夜になってたな、

あいつのアパートも・・・賢一の幼稚園も、まだ、水の中でね

(立って、窓を見ながら、小さく) また、降ってきたな (ポケットに手を入れ)

ずーっと、待ってだ・・・こんな風に、空見上げてね・・・何であんなに星が綺麗だったんだべな

亡くなった人の魂が、一つ一つの星なったような恐ろしいぐれいの・・・綺麗な星だった・・・

あんな空なら・・・銀河鉄道走ってでも不思議でねえよ

何万つう人達が亡くなって、美雪も賢一もいねくなって

(小さく) 何で俺だけ残ってしまったのがな

妹の旦那はさ、新日鉄で働いてたがら結婚して、釜石に来てね

・賢一生まれて・まあ・色々あって・別れだんですよ

美雪ひとりで、賢一、育ててだから

花巻帰ってこいって言ったんだけど、こっちで合唱団にも入ったし、友達も出来たから

もう少し頑張ってみるって・ホームヘルパーの資格取って、デイケアセンターに

勤めてたんです

(前見て) あの日、施設のお年寄りを高台の避難所に連れて行った後に

「これらが、幼稚園に、賢一迎えに行っから・お兄ちゃん・みぞれ降ってきたよ」って

電話よこして、その後「賢一と会えたよ」ってメールがきて、それが・最後だったな

あのとき、怒鳴りつけでも・そこ動くなって言ったら

美雪だけでも・助かったんでねえが「津波てんでんこ」って言って、

津波が来たら、家族、バラバラに逃げろって言うけど

(下向いて) 子供ほつといて逃げる親はいねえよな

(敏子に) ね、敏子さん

P 8 (コーヒー2杯目 注ぎながら)

・敏子さんってさ、ああ、宮沢賢治さんの妹と・同じ名前だね、

ご両親は賢治さんのファンすか？イーハトーヴの人だろうからね(飲む)

賢治さんが岩手県を理想郷のイーハトーヴって言ったのは

エスぺラント語から来てんだってね

あとほら、花巻は・ホームキヤ。盛岡は・モリーオってね

俺も昔から大ファンで、一番好きなのはね・「永訣の朝」って言う詩、知ってるかな

ほら、賢治さんの妹さんが・遠くに行ってしまう、最後の朝にね

「あめゆじゆ とてちてけんじゃ」って二人が使ってた茶わんに、みぞれを、

採ってきて下さいっていうんですよ

(腕組み、下見て) その、みぞれってき、どんな味だったんだべ

天上のアイスクリームなんだって・・・でも・・・

(顔上げ) アイスクリームはやんだな、しやつこいがら・・・歯にも染みるしな

どうせだったら・・・マシユマロがいいな。温かくて、柔らかくて・・・(飲む)

(窓見て) 今日も、みぞれ、降ってんな・・・もうすぐ四月だって言うのに

今年は、春来んのがな(飲む)

P 9

妹はね・・・笑い上戸でね、いつも笑ってだな・・・笑い出すと止まんねんだ

(手帳から、妹の写真出しながら) 親父の葬式の時も笑ってしまったんですよ

いや、嬉しくて笑った訳ではなくてね

ご焼香の時にね、親戚のおんつあんが、立ち上がったとたん、足しびれてでね、

お経読んでる、お坊さんに、おぶさってしまっってね

(敏子に) それ見で、妹は、ふきだしてしまつてね

つられて親戚一同笑つてしまつたな

不謹慎だげど・・なんだか・・少しだけ、気持ち、楽になった気がしたな(写真に)な

もしかしたら、人間の一番の発明つうのは、笑いでねえが

歌の無い世界も淋しいけど、笑いの無い世界はもっと寂しいがらな

・・今は、何処からも、歌も、笑い声も聞こえないけど、いつが、いつがな

歌と笑いが(写真に)また、戻つてくつといいな。(写真しまう 手帳しまいながら)

去年の暮にね、盛岡劇場で合同合唱会あるから・賢一連れて、聞きに来てつて言われてね

「喜びの歌」つていうんですか。いやー・・何百人で歌うと迫力あつたな

(鞆を置きながら、止まつて) 何で最後の最後に、あの歌、歌つたのかな

(手をひぎの中に、揺れながら) 今日ね、初めて、賢一の幼稚園の近くに、行げだんですよ瓦礫の中に、やっと、道づぎてね、
(揺れ止まって) 何にもねぐなってだ・・

風景が変わったどころか・・ (小さく) 風景ねぐなってだ

(手、ひぎで踏ん張って) 　　でもこは・・イーハトーヴだから・・

イーハトーヴは・・ドリームランドで・・夢の国で、

そこでは・・どんな悲しみも・・どんな苦しきも・・やがて・・聖く・・輝きだして

田園の・・風と・・光に・・みちあふれるんだって・・

(コーヒーしまいながら)

ごめんね、話長くなって、疲れた？ コーヒーも冷めだわな (コーヒー飲みきる)

良かったら・・マシユマロ、味見してみで

(マシユマロを4個、紙に乗せる 上からシュガーパウダーを雪のように降らせる)

(星めぐりの歌 入る マシユマロを1個口に入れ 食べる 見つめる)

んで、そろそろ帰っからさ・・来週、また来っけど・・・そんな時は

(立ち上がって、初めて 敏子に 直接話しかける) (ここさ、残ってんなよ・・

(棺桶の蓋を閉めて 合掌 銀河鉄道の音聞こえる 窓を見上げる) 幕